

令和6年度 第2学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。まずは、生徒の皆さんが本日の終業式を大きな事故やけがもなく、無事に元気で迎えられたことを大変うれしく思います。また、皆さん自身の行動に感謝します。

さて、皆さんの2学期を振り返ってみて、どんな2学期になりましたか。学校行事としては、大きなイベントとなる体育祭は残念ながら本番は悪天候のため、今年度中止となりました。しかし、皆さんの気持ちを汲んで、学年行事として先週3つの全ての年次において、第77回体育祭リターンズとして無事に実施できました。皆さんの普段の頑張りと支えてくださった年次の先生方に改めて感謝します。年次別では、1年次生は進路に向けた系列の選択、2年次生は修学旅行、3年次生は就職選考試験や指定校等の推薦入試など、人生の岐路にたった選択を迫られる大きな出来事や、高校生活の思い出に残るイベントを体験する貴重な充実した時間を過ごせたと思います。

2学期の振り返りとあわせて、令和6年も振り返ってみてください。日本漢字能力検定協会が募集している「今年の漢字」は3年ぶり5度目となる「金（きん・かね）」が選ばれました。パリでのオリンピック・パラリンピックでの日本選手団の多くの金メダル獲得、政治と裏金問題など、光の金（キン）と影の金（かね）に注目された一年でした。2位は元旦に起きた能登半島地震に象徴される『災（わざわい）』、3位はメジャーで50-50を達成した大谷翔平選手の『翔（はばたく）』という漢字が選ばれました。私はこの4月より学校（教育現場）での勤務となり、多くの生徒や先生方との出会いがあったので、『会』という漢字を選びました。皆さんは良かったこと、悪かったことを含め、新しい年を迎えるにあたり、令和7年の意気込みを胸の内に秘めて、1月1日から夢実現にむけて行動に移していきましょう。

ところで、皆さん、2学期の始業式において私からのお願いは覚えていますか。「トライ・アンド・エラー」の精神を養って欲しい。そのためには、失敗を肯定的に受け入れる姿勢を持ち、失敗を恐れずに、チャレンジする、まず行動を起こすことが大切で、アメリカの発明家、トーマス・アルバ・エジソンの努力と不屈の前向きな考え方に習って、人からなんと言われようとも、自分を信じて、やり抜く姿を是非、参考にして欲しいと言いました。どうですか？取り組みましたか？一度や二度の挑戦であきらめていませんか。

私は先日の進路講演会での中村先生がおしゃっていた「過去のつらかったことを言い訳、逃げ道に使う、できない理由、断り人生は何も変化しない。」という言葉が一番印象に残っています。やる気スイッチは自分で入れるもので、講演会はその切っ掛けに過ぎない

からです。人生の先輩やご両親からの言葉を雑音と捉えるか、心のエネルギーと捉えるかは皆さん次第です。特に、3年次生の進路がまだ決まっていない皆さん、今年は年末年始もなく、最後の頑張りが必要になるかもしれませんが、受験終了の合図があるまで諦めずに、自分と向き合ってください。私から受験生の皆さんに「人事を尽くして天命を待つ。」ということわざでエールを送ります。できることは全てやり尽くす、結果は運命に委ねるという意味です。自分を信じて、頑張ってください。

最後に、いつも言っていますが、自他ともに命を大切にしてください。そして、健康第一で生活しましょう。これも1学期の終業式でお願いしましたが、本日、帰宅したら通知表とともに、家族に対して「いつもありがとう。」の感謝を忘れずに伝えてください。伝え方は皆さんにお任せします。

3学期始業式には全校生が元気で、新年とともに一つ年次が進級した意気込みを感じられる姿での再会を楽しみにして、2学期終業式の式辞とします。

令和6年12月24日

校長